

「先輩の実績は後輩へのプレゼント！」

後輩の実績は先輩のステイタス！」

という思いで、プレゼントします。

昨年度入学した先輩から君へのメッセージ集

『この一年間で私は…』

大阪学園大阪高等学校 第七十五期生（二〇二〇年度入学）

## 「この一年で私は」

A組 寒川 光（大阪市立大宮中学校出身）

この一年で私は、目標を立て、その目標に向かって主体的に行動することができるようになったと思います。中学生の頃の私は目標を設定せず、行き当たりばったりで行動することが多かったです。しかし、大阪高校に入り、環境や先生方のおかげで目標を立てて行動できるようになりました。特に変わったと思うのは部活面と学業面です。私が所属する部活動では目標設定用紙を書くので、そこで目標を立てる大切さを学び、学校生活や日常でも生かせるようになりました。学業面でも目標設定をして、計画通りに学習を進める難しさや、モチベーションの保ち方など、多くのことを学ぶことができました。正直に言くと、部活動と学業の両立はまだ出来ていませんが、残りの二年間は両立できるように、努力したいと思います。あとは、将来の夢が見つかりました。今までは将来、就きたい仕事を見つけたことができません。ただ闇雲に何も考えず生きてきましたが、大阪高校では進路のための取り組みが多くあるので、社会と接する機会が多くなり、沢山の職種や進路先などを見ることができました。先生方も私たちのやりたい事を否定せず、色々聞き、動いてくださるので自分もしたい事のために動いてみようという気持ち溢れて、そこで主体性が身についたと思います。一年間の学校生活を通して、私は大阪高校に入学して良かったと思っています。この一年間で学んだ事を活かせるように残りの二年間の学校生活を後悔しないように楽しみながら過ごしたいと思います。

## 「この一年で」

A組 高本 玲士（大阪市立南中学校出身）

この一年で私はコミュニケーションをとることの楽しさと積極的に行動することの大切さを学んだ。以前までは一人が気楽で、仲間と一緒に行動することができず、周りに馴染めずにひとりをよく選んでいた。そんな中学時代を自ら選び送ってきたが心のどこかで友だちと話したい、友だちと行動できる人たちが羨ましいと思ってた。そこで、一年間周りを見て状況を把握し、隙間を見ては自ら話しかけにいこうというような、積極的に行動するということを意識し日々を過ごした。一人にいる時よりも辛いことはたくさんあった。その分嬉しいことも増えた。そして、初めてこの高校へ来た時、緊張しすぎて「苦しい、もう学校へ行きたくない」と思っていたが、今では頼れる仲間や先生ができて毎日が楽しいと思えるようになった。今回は自分にとってプラスな方面へ進むことができたが、次もこうなるとは限らない。でも行動しなければ何も変わらないことを知った。だから、私は積極的に行動できる人になっていこうと、この一年を通して決意した。

## 「1年での成長」

A組 野村 優（茨木市立平田中学校出身）

私は高校生になってから、以前より自分の好きなことを話せるようになりました。中学生の頃はあまり自分のことを話すのが得意ではありませんでした。友達と話するのは楽しいけど、聞き手になることが多く、自分のことを話すことはほとんどなかったです。また、授業での発表でも言いたいことを上手く表現することが出来ませんでした。だけど高校に入ってから2学期に文系、

理系のどちらに進むかをプレゼンする機会がありました。なりたい職業が決まっていたのでどちらを選択するかはすぐに決まったけれど、どういう風に発表するか内容が上手にまとめられませんでした。でも、大事な選択なのでしっかりと自分の意見を発表することが出来ました。それから友達と話す時もまだまだですが、以前よりかは自分のことも話せるようになりました。高校は中学と比べて自分の意見を発表する機会がすごく増えました。社会人になってからは今よりもっと増えると思うので高校のうちからこういう経験ができるのはいい事だと思います。

## 「一年間の変化」

### B組 北風 来未（大阪市立新東淀中学校出身）

私がこの高校生活の一年間の中で変わったことがあります

私は中学生のとき「中途半端」が多かったです。勉強についても提出物のみで、部活もあまり行っていない日が多く、何もかもが中途半端な生活を送っていました。また人見知りもあって人とあまり話すことが好きではありませんでした。でも大阪高校に入ってから「積極性」を手に入れることができませんでした。勉強が分かるだけでなく、問題のパターンや出し方が違うとどうなるのかという疑問も生まれ、積極的に自習することが多くなりました。

また、大阪高校は人数が多くて、多くの人と話をする機会があり、話をすることが以前より好きになりました。

このように、一年間で私は「中途半端」な自分から「積極性」をもった自分へと変化することができました。

## 「この一年で私は」

### B組 山口 紗那（大阪市立瑞光中学校出身）

私はこの一年間、部活と勉強の両立をがんばりました。部活は中学校の頃も所属していたバドミントン部です。中学生の頃は塾に通っていたので、テスト前でもほとんど勉強をしていませんでした。しかし、高校では塾に通わないと決めていたし、勉強も中学生の頃よりも難しくなり教科も増えるのでそういうわけにはいきません。そこで私は寝る前の少しの時間だけ毎日復習することに決めました。さらに、テスト前になったら部活のある日でも必ず勉強するように心がけました。そうすると、テストの結果が中学生の頃より

も一教科の平均点をあげることができました。部活で忙しいこともありますが、自分の努力次第で変える事ができると実感することができました。

二年生になると、部活も勉強もさらにたくさん努力しなければならぬですが、この一年で私は努力をすれば結果が出るとわかったのががんばろうと思えます。

## 「毎日が刺激」

### B組 木村 咲良（摂津市立第二中学校出身）

私は今、心の底から大阪高校に入学してよかったと感じています。中学校の頃の私は部活に入っていないく、勉強にも特にこだわることなく、ただただ委員会に全力な生活で、「毎日が最高に楽しい」というわけではない日々でした。

そして大阪高校に入学し、新しいことを始めたいと思い、和太鼓部に入部しました。すると部活の友達とは目標に向かい全力で練習していたり、先輩・同期と話す中でみんながしっかりと自分の目標を持っていました。

それだけではありません。私のクラスの友達は、たくさん勉強を教えてくださいたり、部活を全力ががんばっていたり、自分の目標を達成するために勉強をがんばっていたり…毎日が自分にとってありえないくらい刺激でいっぱい生活です。そして先生方も生徒にたくさんチャンスを与えてくださるので、私もまわりにいる素敵な人たちに負けなくらい色々なことに全力で取り組める人になりたいと思い、毎日を常に全力で生きるように心がけています。今、私は最高に幸せです。この1年大阪高校での出会いが自分を強くしてくれた気がします。

## 「両立を目指すには」

### C組 岡田 峻汰 (大阪市立十三中学校出身)

私がこの一年間で大切にしてきたことは、部活と勉強の両立だ。両立を目指すことで、計画を立てるのが身についた。

中学生の頃は計画も立てずに平凡な毎日を送っていた。高校でもこのままいけるだろうと思い入学すると、想像以上に大変だった。毎日部活をして、毎日小テストがあると、どちらか一方がおろそかになっていった。

そこで私は、一日の計画を書いてみることにした。すると、自分の一日の行動が文字となり明確化され無駄な時間を過ごしていることがわかった。私はその無駄な時間を小テストの勉強にあてることにした。そうするとだらだらと勉強をする時間が短縮され、自分の時間が増えた。また、自分の時間が増えたことにより、何かをおろそかにすることがなくなった。その結果成績が上がり、部活でも活躍できるようになった。

このように計画を立てるとさまざまなことがうまくいった。そして勉強と部活を両立することの大切さも知った。今後の高校生活もがんばっていきたい。

## 「情報と直感」

### C組 西村 愛花 (大阪市立三国中学校出身)

私はこの一年間で、情報を捉えることと直感を信じることの大切さを痛感しました。

入学直後の私はまだ緊張していて、周りのことがあまり見れていませんでした。そのため、科学探究部に体験に行ったとき、同じ一年生なのにみんな

が話していることが何も分からず、絶望していたことを覚えています。話題に出ていたROOTやSEEDSというものについてその人たちに聞いてみると、それらは科学が関係している学外プログラムのことで、もう説明会も終わったと言われました。正直何のことかまったくわかりませんでした。なぜかその時直感で、このチャンスは絶対に逃してはならないと確信しました。その後、私はROOTプログラムに合格して貴重な体験をし、多くの学びを得ました。あの時に情報をそのまま見送っていたら、今の自分は確実にいません。

情報をしっかりと捉えることと、直感を信じることをこれからも大切に、三年間学び続けたいです。

## 「大きな決断」

### C組 高谷 朋美 (高槻市立第九中学校出身)

私は大阪高校に入学して、自分にとって大きな決断をしました。それは、部活動に入ったことです。

私は中学時代、部活には入っていませんでした。そのため、高校生になったら必ず部活に入ろうと決めていました。しかし、実際に入ってみると仮入部の期間だけでも勉強と両立をすることができず、慣れない生活リズムがはじまり、学校で居眠りをしてしまうことが増えてしまいました。このことから、入部はあきらめようと思いました。そんな時、自分を変えてくれたのは友達の存在でした。仮入部期間が終わって2週間くらいが経っても入部しようか悩んでいた私に、「一緒にがんばろう！大丈夫だよ！」と、背中を押してくれました。そこで悩みながらもダンス部への入部を決めました。

もうすぐ一年生が終わろうとしている今、私はあの時入部して本当に良

かったと心から思っています。いやになることもあります。たくさん優しい友達に囲まれて、とても充実した日々を送っています。何か決断をする際に悩んでいる友達がいたら、今度は私が背中を押す側の存在になりたいです。

## 「勉強の楽しさ」

### D組 浅川 祐介（茨木市立養精中学校出身）

中学時代はあまり勉強に楽しさというものが沸いてきませんでした。高校に入学してすぐにコロナで学校が長期休暇に入りました。その期間は勉強もせずに友人と遊んでいました。休校期間が終わり、英語の授業を受けていると、先生が文法について話をされました。最初は特に気に留めることもなく聞いていましたが、「なるほど、楽しい」という瞬間がありました。そして、その理解が楽しさに変化していききました。楽しさを覚えると、次は興味に変化していききました。その後は理解することに楽しくなり、勉強する頻度が増えました。ただ暗記するのではなく、少し考えて覚える、そして問題を解くことが習慣になりました。「なるほど」を体感することで本当の意味で勉強が楽しくなりました。中学時代に体感することができなかった勉強の楽しさです。今後は勉強の方法を自分の中でさらに進化させていきたいと思っています。

## 「この一年で私は」

### D組 間崎 陽菜（大阪市立三国中学校出身）

中学生の頃の私は、成績が真ん中の方で、部活の実力も下の方で、あまり努力をしない人間でした。高校では変わりたいと思い、色々なことが学べるような大阪高校へ来ました。コロナということもあり、さまざまなことが不安だったけれど、たくさん友達もできて毎日充実しています。

私の中で一番の変化は、和太鼓部に入ったことです。和太鼓部に入って、色々なことを学びました。先輩と話すことにより目上の人の敬い方や敬語の使い方がわかるようになりました。また、演奏会の選抜では、私は落ちてし

まいましたが、その落ちた悔しさをバネに努力をして舞台に立とうと思えるようになりました。全然、努力をしなかった自分を努力する人間へと変えてくれた和太鼓部には本当に感謝しています。

他の学年よりもすぐ遅いスタートの高校生活で、不安や辛いこともあります。自分なりに努力をしようと思っています。

## 「高校生になって成長したこと」

### D組 越智 ひより（大阪市立港南中学校出身）

私は中学校の頃からいつもテスト前に詰め込んで勉強をしていたので、テストが終わるとせっつくか一瞬懸命覚えたこともほとんど忘れてしまっていました。いつか変わらなれないといけないと思いつつ、高校生になってもまだその癖が治りませんでした。そんなときに先生から「人間は一回だけ覚えたことはすぐに忘れるから、何回も復習することが大切」ということを教わりました。それから家に帰ってその日に習ったことをもう一度、目を通すという習慣を心がけました。そのおかげでテストが終わったあとでも、習った公式や単語をスムーズに思い出すことができるようになりました。

これからはこの習慣を復習のみに限らず、予習や小テストなどの勉強にもできたらなと思います。そして、中間や期末考査のみに関わらず、模試や実力テストなどでも良い点数を取れるように今後も引き続きこの習慣を大切にしていきたいと思っています。

## 「成長したじや、じたいじや」

E組 谷本 壮司朗 (尼崎市立武庫東中学校出身)

中学の頃の私は、お世辞にも頭脳明晰とは言えなかった。それは成績においても、状況判断力などに関しても。だから私は入学を機に「人として賢くなる」という目標を立てた。

人として賢くなれば、おのずと勉強もするようになるはずだと思っていたため、まずはこのずぼらで面倒くさがりな性格をなおす努力をした。何をしたらかを簡潔にいうならば、「我慢をすること」だ。今思えば、中学の頃とはかく我慢が足りなかった。勉強もすぐに誘惑に負けたりしていた。勉強面以外に関しても、自分の思い通りにならないことが続くと思っていた。私は我慢を意識することで、少しばかり成長できたことがいくつかある。

一つは「人としての接し方」だ。友達と会話をしていると、多少なりともイラツとすることがあるだろう。以前ならそこからケンカに発展することも少なくなかったが、その気持ちを我慢して、相手を許す心を保った結果、人の気持ちもよく考えて話すという当たり前のことがようやく出来るようになった。イラツとする言動を友達がした時、その気持ちを抑えるために相手は何を思っただけでそんな言動をとったのかをよく考えるようにし続けた結果だ。おかげで私は以前より会話が得意になった気がする。

他にも、相手の気持ちをよく考えるようになったことで、物事の後先を考えるようにもなれたし、これまで誘惑に負けていた勉強も、テスト前くらいは自分を律して、真剣に取り組めるようになった。

私はまだまだ成長していきたい。私は未だに継続力というものがない。勉強もテスト前にやるだけで毎日継続するということはまだできていない。他の新しい取り組みにも大体三日坊主で終わってしまう。もちろんそれらを改善する努力はしている。しかし、それはまだ実らない。実った頃には、どれ

だけ私は成長できているのだろうか。

## 「環境とともに…」

E組 大月 蓮司 (尼崎市立園田東中学校出身)

兵庫県立の公立高校に落ちて、あまりにもそれが悔しくなって大高に入学してから勉強をする習慣がつかめました。次の大学受験は絶対に第一志望校に行くぞ！と心に火が灯りました。初めて「悔しさをバネにする」という大事な経験ができました。

中学の部活の時は部長という、立場がどちらかといえば上の立場だったのが高校で新たに部活動に入った時、とても不思議な感覚にありました。一気に上から下に立場は変わるし、先輩方はマスクをしているから顔は区別つかないし、クラブの準備なども何をどうすれば良いのか分からないし…と右も左も分からない状況でした。そんな中でも、ハングリー精神を大事にして、どうすれば先輩方の役に立てるのかとか、どうしたら求められる存在になれるのか…と社会に出ても大切な精神を学ぶことができました。

この大高は、他校とは違ったさまざまな企画などを私たちに提供してくれのおかげで、自分の行動力が底上げされました。元々、行動力はあったのですが、より一層高めることができました。

公立高校に落ちたけど、それは必ずしも悪い方に進む訳ではないと思いましたが、

## 「一年間の変化」

E組 金城 翔真（茨木市立南中学校出身）

私は、この高校生活一年を通して変わった部分と、変われなかった部分があります。

まず、勉強面で変わったなと思うことは、テスト勉強以外の予習・復習を少しずつ始めるようになったことです。学校ではほぼ毎日テストがあるので、机に向かう機会が増えたように感じます。しかし、勉強をする時にイヤホンをつけながらするので完全に集中することができないので、そこは変わりましたと思います。

次に、部活面では毎日一生懸命頑張ってきた成果が少しずつできて、やっけていくうちにどんどん楽しくなっていて「変わっているな」と実感できました。しかし、最初から言われているパスやブロックのつき方など技術面で直すように言われている部分がクセになってしまい、あまり変わっていないと感じています。

この二つで充実した生活を送れています。学校から家に帰ったあと、ゲームをする時間がかなり減りました。何もすることがなくて暇という時間が減ったからです。

最後に変われなかった部分は、まだ時間があるので少しずつでも変わっていかねばいいなと思います。

## 「自分なりの挑戦」

### F組 島村 芽以（大阪市立東淀中学校出身）

私がこの一年を通して一番大きく変化したと思うところは、より多くのことをやってみようと思えた事です。

私は小さい頃からチャレンジ精神があり、どんな事でも「やってみよう」とすぐに言っていました。しかし、それは高校生になった今でも変わらず、いろいろな事を趣味にしてみました。高校生では、小学生や中学生の時より、自分でできることも増えます。そんな中で心もだんだんと大人になり、人やものを見る目も変わります。具体的に私は、これが欲しい、あれがほしい、あの人と話したいという気持ちに加えて、そこからさらに、これをもっと大事にしよう、次はこうしてみたらどうなるのかな、この人のためにもっと自分にできることはないかななど、体の成長とともに心も成長していると思います。だから、今このように思えたことも成長の一つだと思うので、もっと色々なことに挑戦して、プラスになるようにしていきたいです。

## 「昔今の自分」

### F組 野元 温斗（吹田市立片山中学校出身）

中学の時の私は、他人のことは考えず自分のことばかり考えていました。そのせいか、周りの人達とはあまり親しくありませんでした。

そんな私にも少しは友達はいました。ですが、その友にさえ私は、自己中心的なことばかりをしていました。そんな私が嫌いでした。

私は大阪高校を受験する時、仲のいい友達も一緒に受験することを知りました。その時はホッと思いました。ですが、そんな友達と同じクラスになれる保証は無い事は自分でも分かっていました。だから、私は私が嫌いな所を直

そうと思いました。自分のことしか考えない性格を自分よりも他人を優先させたり、人の話の最中に横入れをするのではなく、最後まで聞き相手が自分に何を求めているのかを考える。このようなことを、一つ一つやっていきました。コロナのこともあったので、クラス全員が集まるというのは少し遅くなっていました。ですが、私のクラスは全学年のどのクラスよりも、元気で仲良くそれでいて温かいクラスでした。そんな恵まれたクラスだったからこそ今の私は自分で勉強する事ができクラスの子には聞き上手と褒められました。中学の時の友達にも「お前変わったな。いい意味で。」と言われました。まだまだ自分のことが嫌いですが、少しずつ好きになっていけるよう大阪高校でがんばります。

## 「成長」

### F組 川原 伸聡（大阪市立瑞光中学校出身）

この一年間で私は、行動や考え方、生活などいろいろな変化がありました。行動の変化は二つあります。一つ目は、人と接するようになったことです。中学の頃は、人と話すことに苦手意識があったのですが、大阪高校に入ってから話すことの楽しさを学びました。二つめは、勉強を教えるようになったことです。自分は勉強が苦手だったのですが、自分にとって授業がわかりやすく、友人のわからないところを教えることができるほど勉強、特に数学が好きになりました。

次に考え方の変化です。私は中学の頃は、流れに身を任せて、人生を棒に振って生きてきましたが、高校生になって勉強することの大切さを知り、進学やその先の人生について考えるようになりました。

私は一年間で学んだことを生かして、残りの二年間も変化・成長し続けようと思います。

## 「挑戦」

### G組 児山 太一（茨木市立東雲中学校出身）

この一年、私は色々なことに挑戦し、とても充実した日々を過ごすことができました。

一番の大きな挑戦は、オープンスクール企画運営委員会の活動への参加です。企画から何度も話し合いを重ね、すべて自分たちで作り上げるオープンスクールは大変でしたが、自分たちで考えて行動することで、多くのことを学び成長できるとてもいい経験になりました。

他にも、部活動でギターを始めたり、ゼミやラボなどにも積極的に参加しました。大阪高校に入学して、今までの私と大きく変わったところは、「積極性」です。大阪高校には私を変化させてくれるたくさんのチャンスがあるのでこれからもどんどん挑戦を続けてパワーアップしていきたいです。

中止となった夏期講座などには挑戦できなかったのですが、来年度は、もっとたくさんすることに挑戦していきたいです。

## 「私の挑戦」

### G組 諏訪 花怜（大阪市立都島中学校出身）

私はこの1年で多くのことを学び、色々な経験をしました。

まずは、和太鼓部に入ったことです。私は中学の時、テニス部に入っていました。大阪高校では、中学校にはないような新しい部活に入りたいと考えていました。そこで出会ったのが和太鼓です。オープンスクールではじめてみた時、衝撃を受けました。そして、和太鼓部に入ると決め大阪高校に入学しました。入ってからは友達にも先輩にも恵まれ、楽しい日々を送っています。

す。本当に和太鼓部に入ってよかったと思います。

次に、生徒会に入ったことです。私は、人前に立って何かをすることは得意では無いので、今まではやってきませんでした。しかし、大阪高校に入ってから、そんな自分を変えたいと思ひ立候補しました。朝のあいさつ運動や生徒会選挙の立候補演説など、とても大変でしたが周りの先輩方が暖かく見守ってくださり、とてもいい経験になりました。

私はこの1年で色々な経験をさせてもらいました。2年生になっても新しいことに挑戦する気持ちを忘れず、頑張っていきたいと思ひます。

## 「人間性、感謝の気持ち」

### G組 中嶋 琉人（茨木市立西中学校出身）

私が大阪高校へ入学して一年がたちます。いま私は、陸上部に所属して、そこで大きく二つの事を学びました。

一つ目は、「人間性」です。私ははじめ、陸上でタイムや結果ばかり気にしていました。しかし、顧問の先生はいくらタイムや結果が良い選手であっても人間性がなければ、大人になって社会に出てもやっていけないとおっしゃっていました。私はその言葉から、日々の挨拶・他人を思いやる気持ち、その他たくさんの事を忘れないことで「人間性」が成長し、より良い人材となるための器ができることを学びました。

二つ目は、「感謝の気持ち」です。よく顧問の先生は、親や周りの人に、目一杯の感謝をしなさい、とおっしゃっておられました。当時の私は未熟で、人に感謝の気持ちを伝えるなんて恥ずかしくそんなこと絶対無理だ、と思ひながら聞いていました。夏休みに部活の七泊八日の合宿があり、合宿の間は親の助けなどがなく、とても大変な思いをしました。合宿中、私はいつ

も親の助けがあるからこそ不自由なく、部活に取り組めたのだと実感しました。合宿が終わり、親へしっかりと自分自身の口から、感謝の気持ちを伝えると、親もとても喜んでくれ、気持ちを伝えられて良かったと思いました。

この一年間で私は、「人」として、とても成長したと思います。成長できたのは、この学校へ入学させてくれた親や、この高校で出会った、友達・クラスメイト・先生や部活の同期や先輩がいたからこそだと思います。この事に感謝し、この一年間で学んだことはこれから先も大切にしていこうと思います。

## 「小さな変化」

H組 光武 沙彩 (豊中市立第七中学校出身)

私はこの一年で、自分の考えを表に出して、それを人に伝えることができようになるのを感じています。今までの私は生徒会や部活動でも誰かの意見に賛成し、それを支えていければいいなという気持ちでいることが多かったのですが、自分の意見を持たずに何かを進めていっても楽しくなく、いつかはめんどくさい、と投げ出してしまうのではないかと思い、将来のために少しずつ自分の意見をしっかりと持ち、発言することを増やしていくことを決めました。その意識が顕著に出たのが、オープンスクール企画運営委員としての活動です。以前の私であれば、募集されていても立候補すらしなかったのですが、自ら先生に「やりたいです」と伝えることが出来た上に、主な役割であった動画編集においても、ここはこうしたらどうか、などの意見をしっかりと周りに伝えることが出来ました。とても「小さな変化」かもしれませんが、人の意見に流されやすかった前の私に比べたら、とても「大きな変化」でした。意見をしっかりと出し、話し合いにもちゃんと参加できたおかげで、動画編集もとても楽しい思いになりました。意見を出せるようになったおかげで今まで面倒くさいと感じてしまっていた授業などでの話し合い活動なども、きちんと向き合って出来るようになりました。相手に分かりやすい伝え方や、コミュニケーションの取り方などをできるように二年生でも頑張っていきたいと思います。

## 「この一年での成長」

H組 乙守 勇志 (高槻市立芝谷中学校出身)

僕は、大阪高校に入学して一年が経ち中学生の頃よりも勉強に対しての意識が変わりました。以前までは、部活の練習だけをしていれば陸上競技の成績が良くなると思っていたのですが、今では「部活と勉強を両立をさせないと成長できない」というように考えるようになりました。このように考えるようになったのは、陸上競技部の顧問の先生の言葉があったからです。先生はいつも「グラウンドの練習だけを頑張っても強くない、日常生活をどれだけしっかりと過ごすが大切だ」とおっしゃっています。僕は、いつもこの言葉を胸に、日々の生活を送っています。また、周りの人たちから応援してもらえる選手になるために、感謝の心を忘れないようにしたり、ゴミ拾いを積極的にしたりするようになりました。そのおかげで、この一年間は人として大きく成長することが出来たと自分で感じています。僕は、これからも先生の言葉を忘れず、人としてさらに成長できるように頑張っていこうと思っています。

## 「変化」

H組 北嶋 心加 (高槻市立第二中学校出身)

私は高校に入学してからこの一年間で、変化したことが二つあります。一つ目は、考え方の変化です。中学生までの私は、周りの人ばかりを気にして人に合わせてばかりで、自分で考えたり行動したりしてみようという考えを持たずに、周りに流されてばかりでした。しかし高校では自分の気持ちをちゃんと持っている人が多くて「このままの自分ではだめだ、変わるなら

今しかない」と思いました。そのおかげで、自分で考えること、意見をしっかりと持つことが出来ました。

二つ目は、勉強面での意識の変化です。大阪高校に入学する前までは、自分は勉強でいくら努力しても報われないし、いい点数も取れず、「勉強って本当に意味あるのかな」と思っていました。しかし、大阪高校に入学してから、分からないところを分からないままにするのはいけないと思いました。それ以降、分からないところがあつて、聞くのが恥ずかしいと思っている時間が無駄だったなと思えるようになりました。そう思うようになってから、初めての高校でのテストでは、今まで取ったことがない点数が取れてとても嬉しかったです。人生で初めて、勉強をしていい点数が取れる、嬉しさと勉強の楽しさをしました。今思えば、昔の自分は努力していると勘違いしていただけで努力することから逃げていただけだったことがわかりました。

一年間で二つのことも変化でき、あとの二年間でどれだけ変化ができるのかと楽しみな部分もあるが、いい事ばかりではなく、辛いことや悲しいことがその分あると思います。しかし今の私ならきつとどんな事でも乗り越えて行けると信じて頑張っていこうと思います。

## 「決断するチカラ」

### 1組 山本 歩 (吹田市立西山田中学校出身)

この1年間で僕が成長していく中で一つ大きな芽生えがありました。それは、決断することです。

この学校に入学してそろそろ一年が経過しようとしています。初めての高校生活、最初は不安なことばかりでした。僕は人と接することが得意ではなく、ちゃんとクラスの人と接することができるのか、また、コロナ期間の間ともあって色々な悩み事がありました。そんな中で毎日を過ごしていくうちに自分の中で一つの疑問ができました。

「本当にこのままでいいのか」それは昔からの自分の性格から生まれた疑問でした。周りに流されるだけの人生でいいのか。自分の意思を持たなくていいのか。まるで自分以外の何者かに言われたような疑問でした。僕はその疑問を持って、決断するのは自分なんだ、と思いました。その時初めて自分になった気がしました。この先の多数の選択があったとしても、自分の意思を持って進みたいと思います。

## 「行動一つで変わる結果」

### 1組 吉田 凌真 (大阪市立弘済中学校出身)

大阪高校に入学してから一年が経ち、多くの経験を手にすることが出来ました。今年は、コロナ禍という非常事態と共に始まり、うまくいかないことが沢山でした。

そんな大変な一年で、私は多くの出会いや経験を得られる事ができました。まずは、「友達との出会い」です。最初は小さなきっかけで話し始め、時

間をかけて仲良くなれました。今では、自分の家族よりも話す時間が長いような気がします。一緒に遊びに行ったり、テスト勉強をしたり、様々な日々を過ごしてきた事で、「自分の存在」を理解することが出来ました。相手のために行動すること、相手の意見をしっかりと尊重すること、そんな存在でいたいと改めて思いました。

次に経験です。授業やテスト、部活や私生活で私が得た経験は、「頑張る」という意味です。一般的によく使われている「頑張る」とは、誰かのために結果を出したり、自分が褒められたりするためだと思います。しかし、私が見つけた「頑張る」という意味は、自分自身という存在を形造る、ということです。例えば、誰かのために頑張るというのも、自分が誰かの役に立ちたいという思いが、形として結果に現れたものだと思います。誰かに認めてもらえなくても、気づかれなくても、頑張るという自分自身の形が、いずれ結果として現れてくると実感しました。

最後に私が伝えたいのは、もがくことです。私がこの一年で足りなかったものです。ほんの小さな事、例えば、小テストや授業、また、定期テストや学校生活。何でもいいです。何か一つでも、もがき続けることが大切です。そうすれば、必ず結果につながると思います。私は、これからも何事も、もがくことができるように頑張ります。

## 「高校生になってからの変化・成長」

### 1組 芦田 青空 (茨木市立西山田中学校出身)

高校に入学して一年間で自分の変化や成長したところがあります。まず変化したと思うところは意識的なものです。中学の時は授業や部活、日常生活で中学生としての意識がとても低く、授業では友達と話してしまったり、寝

てしまって、部活では言われたことしかせず自分で考えて行動することがありませんでした。日常生活では中三でも遊んでばかりで何事にもある程度で止まってしまっていました。でも高校に入ってから、少し意識が高くなりました。それは周りの環境が大きく変わったからだと 생각합니다。特に意識が高くなったと思うのは日常生活です。中学から続けていた陸上部に高校でも入部して、その陸上部が自分の中で大きな存在になり日常生活でも「自分は大阪高校の陸上部だ」ということを意識して恥じないような行動を取るようになりました。部活でも変化したところは、自分から考えて積極的に行動したり、あいさつや感謝などの当たり前のことを、当たり前にする事を中学の時よりも心がけるようになりました。授業では先生の話をただ聞くだけでなく、理解しようとしながら聞く事で授業について行けるようになりました。このことも踏まえて、自分が成長したと思う事は、部活も授業も日常生活もつながっていて、どれか一つを疎かにしていたら他のことにも悪影響を及ぼし、逆に一つ一つ努力していたらちゃんといいい結果が出ると気づけたことが高校生になってからの成長だと思います。

## 「学び」

### J組 大川 智輝（茨木市立東雲中学校出身）

この1年間で私は、勉強、野球、生活、出会い、成長、挨拶すべてから色々な事を学びました。

例えば野球では、まずどんな選手になりたいか。そのためには何が必要でどんな事をすればいいのか、どうすれば信頼されるか、どんな事をすれば協力・応援してもらえるか、そして挨拶は相手を見て察して、どのように対応するかを「相察」と教えてもらいました。特に自分が大事にしていることは、普段の生活から周りをよく見て考えて行動できること、誰かに見られても恥じない事ができているかです。それは技術にも繋がります。例えば周りをよく見て落ちているゴミを拾うということ、いいプレーをしている人を見て真似をすること。どちらもよく見るという事に繋がっています。

私はこれからも学んだ事を大切にして努力し、一生懸命取り組みたいです。

### 「中学生の頃より出来るようになったこと」

#### J組 梶原 彩華（摂津市立第四中学校出身）

私はこの一年間で中学生の頃よりも出来る事が増えました。たくさんありますが、大きく分けて二つあります。

一つ目は勉強をするようになったことです。中学生の頃は全くと言っていいほど勉強をせずに過ごしていました。「また今度やればいいや」という中途半端な自分が嫌だったので、「高校では絶対に前よりも勉強するんだ」と自分自身に言い聞かせました。この気持ちの変化のおかげで、今までに無いほど勉強をし、しっかりと自分自身の目標通りの結果が出せました。

二つ目は人との付き合い方がより良くなったことです。私は人に話しかけることに勇気が出ず、自分はコミュニケーションが下手だから、と自分の中で言い訳をすることがたくさんありました。高校では知らない人ばかりになるので不安でしたが、幸いなことに、優しい人ばかりですぐに友達もできたり、中学が同じだった友達や趣味の話が合う人も出会えました。少しでも自分から話しかける回数を増やすことを目標にし、今も少しずつ頑張っています。二年生になればまた不安なことはかりになるけれど、中学生の頃よりも出来ることを増やして、自分に言い訳する事を減らし、自分自身を変えられるようになりたいです。

### 「この一年で私は」

#### J組 林 宙方（大阪市立新北野中学校出身）

私はこの一年間で、今までチャレンジをしてこなかったことや新しいことに積極的にチャレンジできたと思います。たとえば今まで読んだことのない小説を読みはじめたことや、新しい勉強方法を試行錯誤することをしてきました。それによって、今までの価値観や物の捉え方が変わった気がします。今までは物事の表面だけを見ていましたが、今ではその内面なども見るようになったと思います。

だから、私はこの一年間で学んだことをしっかりと活かして、私が苦手な人間関係をよくすることにチャレンジしたいと思っています。私は、昔からコミュニケーション力が低かったのですが、まずは自分のコミュニケーション力をあげる努力をしたいと思います。そして、今まで接点がなかった人やうまく話せなかった人と仲良くなれたらいいなと思っています。

## 「積極的に」

K組 畦元 彩未 (茨木市立南中学校出身)

私は昔から人見知りで、今までは相手に何度か話しかけてもらって慣れるまでは自分から話しかけることはできませんでした。

そんな自分が変わったと感じたきっかけはオープンスクール企画運営委員会に入ったことです。私の担当は学校生活や行事活動についての説明したり、質問に答えたりする事でした。初めは来て下さった方に話しかけるのに友達が先輩に付き添ってもらったのがやっとでした。しかし、先輩が「話しかけるのさえ頑張れば後は勢いでいけるよ」と言ってくださってから一人でいってみようと思えました。それでも最初はすごく緊張したけど、話し終えた後にお礼を言ってもらえたのが嬉しかったです。それからは積極的に声をかけられるようになりました。先輩のアドバイスのおかげでオープンスクールを最後まで楽しめました。

これからも色々な人と関わることがあるので積極的に声かけをしていきたいです。

## 「大きな変化」

K組 武田 光央 (尼崎市立立花中学校出身)

私はこの1年間で大きく変わることが出来ました。中学生の頃の自分は、嫌なことからすぐに逃げて、授業にも出ず保健室で過ごしたり、精神的に不安になったり色々なストレスで学校に行けない日々もありました。

しかし、この1年、私は部活に入らず自分の好きな事をする時間や、自分と向き合う時間が増えて、中学生の頃のように、授業に出ない、学校に行け

ないということはなくなってきました。心に余裕ができて、マイナス思考しか出来なかった自分でも、少しずつ、プラス思考ができるようになったり、周りのことを考えて行動できるようになりました。高校に入学してから、母や周りの人たちから「よく笑うようになったね」と言われることが多くなり、自分次第で変わることが出来るのだと気づけました。

中学生の頃には考えられないくらいこの1年で大きく変わったと思っています。毎日友達と笑って過ごせている今がとても楽しいです。

## 「自覚と責任」

K組 吉田 梨心 (池田市立茨谷中学校出身)

私は、この1年間で「自覚」と「責任」というものの重さを感じました。中学生までは義務教育に守られていたり、まだ子どもだからという言葉で許されていた部分もたくさんありました。

しかし、高校生になると日常生活でも部活動でも「自覚」と「責任」をもって行動することを求められる事が多くなりました。入学当初は、「自覚」と「責任」という言葉を聞いても自分には関係のない事だと思っていました。けれど勉強をしないと進級出来ないという事実や、面談などで将来の事について聞かれた時に先生や周りの人たちが言っている「自覚」や「責任」について考えるようになりました。中学生の時よりも自主的に行動する事が増え、当たり前の事をする事が簡単そうに見えて難しい事だと改めて感じました。

これからも色々な面で成長し、周りを見てたくさんの方に気づけるようになりたいと思います。

「この1年で私は…」

し組 新井 七海 (吹田市立千里丘中学校出身)

私がこの1年間で変わったことや成長したと思うことは、2つあります。

1つ目は、勉強への意識の変化です。中学生の頃はとりあえず提出物を出したり、「必要最低限の点数が取れたらいいや」と思ったりしていました。高校生になってすぐにやる気が出たのではなく、1学期期末考査の結果が変化のきっかけでした。自分自身が思っていたよりも点数が高く、クラスでも上位にいました。それが分かってからは、分からない所があったらすぐに友達に聞いたり、テスト前に友達と勉強したりと、常に上を目指しています。

2つ目は、友達の大切さです。新型コロナウイルスが流行って、今まで普通に会っていた友達と会う事がなかなか出来なくなると、友達と会えるのは当たり前じゃないんだなと気付かされました。また、去年の自粛期間で高校生活のスタートが遅くなり、友達ができるのか不安がだんだん募っていきました。今ではたくさんさんの友達と毎日のように会えています。この日々も当たり前ではないから、残りの高校生活を全力で楽しんで、全力で友達や家族、大切な人を大事にしたいと思います。

「きっかけ」

し組 岡本 芽唯 (大阪市立本庄中学校出身)

私は中学生の時、勉強がとても苦手でした。だからといって、頭が良くないかと思うこともなく「自分には無理」とあきらめていました。そして高校に入学して授業が始まった時、授業の内容をどんどん理解できていく自分に気づき、その時勉強に対して初めて楽しいと感じ、自分に自信が持てまし

た。そこからみるみる勉強への意識が変わっていき、自分にもできると分かった。でどんどん上を目指すようになりました。

高校生になって最初の定期テストがあり、その時初めて自分の成績に順位がつけられ、自分のレベルを知りました。私はクラスで10位以内に入ることができ、自分ももっと頑張ればもっと上にいけるんだと分かったことがきっかけで「頭が良くなりたい」「もっと勉強しよう」と意識が変わりました。

このように、自分の中で苦手意識があったり、手をつけてこなかったことでも少しのきっかけがあれば、全く違う考え方や意識に変えられることができるようになったので、これから先の人生はいろいろなことに挑戦していこうと思えました。

「この1年間で私は…」

し組 福田 萌 (大阪市立新東淀中学校出身)

私は高校生になっていろいろな経験をして、人として成長した一年になりました。

大阪高校に入学したての頃は、部活に入らずに勉強を頑張ろうと思っていましたが、体験入部の時、和太鼓部を見に行ってみようと思つて行ったら、想像以上にかっこよくて心に響きました。そこから、「私は和太鼓部に入部しよう、この部活で頑張りたい」と思いました。私は、人と喋るのがあまり得意ではないので、初めはすごく緊張していて、やっていけないか不安でした。でも、時間が経つにつれてみんなと仲良くなり、先輩も優しく教えてくれるので、楽しいなと思うようになりました。

コロナで大会がなくなったり、イベントも減ったりして演奏する機会が少ないけど、メンバーを決める選抜に合格するために頑張りたいと思つて

います。そのために、体力をつけたり、声を出したりして、練習から本気で頑張ります。

和太鼓部に入って、人と関わる事が多くなり、人として成長したと思います。選抜に落ちた時の悔しい気持ちや、演奏している時の楽しさを学びました。部活の雰囲気もすごく良くて、毎日楽しいなと思うし、和太鼓部に入っ  
てよかったと思います。これからも、目標に向かって練習を頑張っていきたい  
と思います。

「光」

M組 牧瀬 玲（大阪市立美津島中学校出身）

「二位」。私の目に入ってきた光景は後味が良くなかった。そして一位を取った名前を見ると、同じクラスの子だった。そう、意外にも私のライバルは身近にいたのだ。次に点数差を見ると、十点以上離れていた。私はすっかり悲観した。そこからあまり自信を持つことができなくなった。毎日心が湿っていた。「このままではいけない」、だんだんとそんな感情が強くなっていった。私はあらゆる方法を模索した。一位になるための方法を。手始めに私は授業態度を見直すことにした。きちんと話を聞いていただろうか。教室の座席は前方に移動した。毎日の予習、復習もしっかり行った。そしてテスト明けのある日。私は校内ランキングを確認した。私の目に飛び込んできた光景は「一位」。私は酔うような喜びに打たれた。今までの晴れ晴れしない気持ちに、「光」がはいってきた。そこからというもの、自分に自信がついた。今までより学習ができるようになった気がした。学年が上がってもこの順位をキープできるだろうか。未来への期待と少しの不安が止まらない。

「勇気を出して行動する」

M組 小山 千晴（豊中市立第六中学校出身）

中学生の頃、私は人見知りで人とコミュニケーションを取ることが苦手でした。大高の入学式の時も不安と緊張があつて、高校生活がちゃんと上手くいくのかなと思いました。だから私はこの性格を変えたいと考えました。まず人と仲良くなるために勇気を出して積極的に声を掛けました。最初は少し気まずかったけど、相手も私もどんどん心を開いてたくさん話せるようにな

りました。それからいろいろな人と会話が弾んでとても嬉しかったです。

また私は部活をしています。ここでも先輩や同期がたくさんいて、コミュニケーション力が必要でした。前までは人との接することがとても苦手だったのに、今では自分でもびっくりするくらい人とコミュニケーションを取ることが楽しいと感じるようになりました。なので、この一年間で「自分を明るく変えたい」と強く思つて、勇気を出して行動をしたら、人は良い方向に変わるんだなと自信ができました。

「やればできる」

M組 四元 和将（大阪市立新北野中学校出身）

私はこの一年間で多くの「できない」を「できる」に変えました。勉強や努力が苦手な私は「できるようにしよう」と日々努力をしました。なぜ頑張れたかと言つと、公立に落ちたことによる後悔からです。だから私は言いたい。「こんなことがあつてもチャンスはある!」。私は中学生の頃からそれほど頭も良くなく、サボりがちでしたが、大阪高校に入学してから今までやらなかった勉強や努力をしました。それも毎日最低十五分やりました。テストの結果はクラスの真ん中より、少し上の順位をとることができました。成績は平均四以上と良い感じですよ。そこから学校生活も中学の頃より楽しくなりました。授業も分かるようになると、とても楽しくなり、勉強が楽しくなります。つまり、「やればできるんです!」やらずして語る資格なし!できないことはやり方を変えればいくらでもあります!」

私は限られた時間を大切に、これからも頑張っていきます。

## 「一年間で成長したこと」

N組 久野 琴美 (箕面市立第五中学校出身)

私はこの一年間、部活を通して成長することができたと思います。まず、私が大阪高校に入学しようと思った理由は、大阪高校で陸上競技をしたいと思ったからです。私は、中学校でも陸上競技をしていたのですが、高校の陸上部に入部して成長できたことが二つあります。

一つ目は、部活に対する意識です。中学生の頃は、メニューを見ても「今日はきついな」や「今日は楽な方だな」としか思っていないませんでした。しかし、高校に入って周りのレベルの高さに「さすがにやばいぞ」と思った私は、メニューを見た時に、「この補強はここに効くんぞ」や「ここを意識してやらない」と思うようになりました。また、それを意識することですっかり筋肉に効いていることを実感し、嬉しい気持ちになりました。

そして二つ目は、上下関係です。中学生の頃は、先輩よりも後にグラウンドに着くこともあったし、準備の際にも、先輩がしていても代わろうとしない時がありました。しかし高校に入って、上下関係の厳しさを実感しました。例えば、休日の練習だったら先輩よりも早く来て準備をしたり、先輩が何かしていたら代わったりしたり、などです。考えてみれば当たり前のことですが、中学生の頃は甘えていたんだなととても感じました。最初は行動が遅く注意されることが多々ありましたが、最近では早く行動できるようになりました。このように、私はこの一年間部活を通してとても成長できたと思います。そして、この学んだことを、次の後輩にも学んでもらえるように教えていきたいと思っています。

## 「私が変われたこと」

N組 田中 詩 (大阪市立友洲中学校出身)

私はこの一年間で変わったと思うことが沢山あります。中でも一番変わったと思うことは「主体的」に行動できるようになったことです。

大阪高校では、先生に指示されて動くのではなく生徒が考えて自分達で行動するのがほとんどなので主体的に動ける力がついたと思います。文化祭ではクラスで出し物を決めて自分達で作ります。私は行事委員になり、率先して物事を決めなければならなかったので前に出て発表したり仕切ったり、中学生の頃には経験したことのないことを沢山できて成長できたと思います。

部活動では、マネージャーの仕事を通していろいろなことを考えられるようになりました。今はどんなことをしたらいいのか、次は何を用意すればいいのかなど、まだまだ完璧には遠いですがこれからもっと考えて行動し、成長できるようにになりたいと思います。あと二年、大高で沢山のことを学び、頑張りたいと思います。

## 「たくさんを経験を通して」

N組 原 悠太 (和歌山県橋本市立紀見北中学校出身)

私はこの一年間でたくさんを経験して大きく変わることができました。それを少し紹介させていただきます。一つ目は、勉強面の事です。正直にいいいますと勉強面は中学校の頃より楽になりました。その理由は二つあります。一つ目は、とても良い先生がたくさんいてわからないところをわかりやすく教えてくれます。二つ目は、習う事は中学校より難しいものが多いですがテストの問題は中学校の頃より易しくなっているので中学校の頃テスト

で三十点をとっていた自分でも八十点をとることができました。努力をすれば高得点、高順位になることができると思います。三つ目は部活動です。自分は中学校から陸上をしていたのでこの学校に入って陸上部の長距離に入りました。中学校の頃は、正直練習は適当で人数も少なかったのですが、この学校に入り本格的な練習や大人数での練習ができ、とても楽しい生活を送れるようになりました。この学校に入ってよかったと思いました。

【新ついで】

N組 吉谷 菜央（高槻市阿武山中学校出身）

私は、大阪高校に入学して少しばかりですが中学生の頃よりも成長したなと実感しています。私は中学生の頃あまり人と話すことが得意ではなく、学校生活は楽しいものとは言えませんでした。でもこの大阪高校に入学してからは新しい環境でしたが、沢山の先生方やいろんな同級生、他にも多くの「新しい」が見られました。中学生の時に見ていた景色と違い過ぎて驚きました。でもそのおかげで、今では苦手だったことに進んで取り組んでいます。

例えば、私は数学と社会が苦手だったけれど、友達と一緒に協力して今頑張って勉強していることは自分でも一番変わった事だと思っています。中学生の時では想像もつかないくらい、今は数学と社会が好きになりました。環境が変わる事は大変な事だけれど、新しく自分を変えるチャンスなんだなと高校に入って強く実感することが出来ました。

## 「今できる事」

### ○組 中村 正凱 (摂津市立第一中学校出身)

私は、高校生になってから変わったんだなと思うことがいくつかあります。一つ目は、自分が今まで苦手としていた、人前で何かをするということに対して少し抵抗がなくなったことです。このコロナ禍の中、例年と比べてイベントが減ったり、少し規模が縮小された状態で開催されたりということが多々ありました。ですが、そんな中で、人前で話したりすることへの抵抗が減ったのは、おそらく短い期間で仲の良い友達を作ろうと思ったからだと思います。なので、コロナのせいで嫌なことがあった分、コロナのおかげで、私は変わったんだと思います。

二つ目は、勉強に対する気持ちの変化です。中学生のときまでは、ギリギリにやればいいという考えでしたが、高校生になり、余裕があまり無くなった今、ギリギリになってから勉強するのではなく、しっかりと時間を作ってやるほうが楽だとわかりました。私はこれからも考えながら成長していこうと思います。

## 「一年を通って」

### ○組 平野 夏実 (池田市立茨谷中学校出身)

私はこの一年を通して「自分で考えて行動する」ということの大切さを知りました。高校に入学する前は「義務教育」だったため自分で考えて行動しなくても、なんとか前に進むことができていました。しかし、高校生になって自分で責任を取らないといけない機会が多くなりました。小学校や中学校とは違い高校では勝手に進級できない環境に変わり、勉強面でも自分で動く

という大切さを感じました。その中でも一番大きかったのは、文系か理系かの選択をするときです、選択を間違えたらどうしようという不安でいっぱいではなかなか決めることができなかったけれど、先輩や先生に聞いて自分ですっかりと考えて答えを出すことができました。

この文系理系の選択があったことや高校生になって様々な環境が変わり、私の責任感や意識が大きく変わったことで自分で考えて行動するという大切さを知ることが出来ました。

## 「この一年で私は」

### ○組 藤田 夢月 (大阪市立井高野中学校出身)

中学生から高校生に変わり、環境も変わり、「高校生」というのにワクワクと不安の両方がありました。最初の二ヶ月間は休校や分散登校が続いたので、友達ができるかどうか、できたとしても、この状況で遊びに行ったり学校行事ができるかも分からず不安でいっぱいでした。でも友達ができ、高校は学校行事を感染対策しながら開催してくれて、ルールの中で自由に楽しみ、この一年間でたくさんの思い出を作ることができました。今まで当たり前だった多くのことが規制され、思い描いていた「高校一年生」ではなかったけれど、そのおかげで友達の大切さや学校に行ける日常の有難さを改めて実感することができました。

こうした気持ちを忘れることなく、二年生になっても、たくさんの思い出を作り、充実した学校生活を送りたいです。

「この一年間で私は…」

P組 畑中 璃々花 (豊中市立第四中学校出身)

この一年間で私は、何事にも挑戦できたと思います。

中学生の頃の私は「まあ、やらなくていいや」と色々なことに自分から線を引いて踏み出せずにいました。でも、高校にはいつてからは「どうせならやってみよう。」と色々なことに挑戦してみることにしました。例えば、中学の頃には絶対しなかった議員をやってみました。やってみると確かに面倒で、何でやってしまったのだろうと思うこともありましたが、でも一つ一つの仕事を終える度に「やってよかった」と思えました。他にも中学生の頃は怪我で無理だった持久走も「とりあえずやってみよう。」と思い全て走りきることが出来ました。他にも小さなことばかりですが多くのことに挑戦できました。

一つ一つの事は小さくても少しずつ挑戦していくと、中学の頃の私より少しずつ成長できていると思います。これからも一つ一つを大切に挑戦していきたいです。

「この一年間で」

P組 中村 誓良 (大阪市立佃中学校出身)

私は大阪高校に入学し、勉強ができるようになりました。中学生の時は、授業をまともに受けず、寝てばかりで、テストの平均点数は40点前後でした。そんな私でも高校入学を機に、勉強を頑張ろうと努力しました。きっかけは受験した公立高校に落ちたことです。高校での授業内容は、中学の授業をあまり覚えていない私でも理解できる内容だったので、勉強を頑張ることが出

来ました。その結果、一学期の中間テストで900満点中、750点以上を取ることが出来、自分に自信ができました。そして、その後のテストでも高い点を取るよう努力し続けるようになりました。

私は一年間の高校生活で、勉強への自信と自主学習をする習慣を身につけることが出来ました。これらを身につけたことにより、私は確実に成長できました。この習慣をこれからも続けていけるようにしようと思います。

「考える習慣」

P組 横張 美結 (高槻市立第二中学校出身)

この一年間で私が変わった事は、自分で考えて何かをするという事です。特に部活動で感じる事が多いです。勉強も同じです。

部活動では陸上競技をやっている、中学の時では、練習のメニューに対して意識するところなどを先生に伝えられてそれをそのまま意識するだけだったり、先生の言う通りにしていたり、自分に足りないところを考えるのは無かったのに、高校では自分に足りない部分を考えたり、メニューに対してどうしたらいいのかを考えることが増えました。練習でも次は何をしたらいいのかを考えて行動することが多くなりました。最初は、自分から考え行動したりするのは出来なかったけど今は、できるようになったと思います。部活だけでなく勉強にも生かしていきたいと思います。

この一年では、大変なことが多かったです。「考える」ということの大切さを知り、これからも大切にしていこうと思います。他にも積極的に色々なことをやっていきたいです。

## 「意識の変化」

### Q組 安達 一勝 (高槻市立第二中学校出身)

中学生の時はあまり自分の将来を考えた事がありませんでした。しかし、高校に入って大人に近づくにつれて必然的に将来を考えないといけないことに気づきました。今もそれについて悩んでいて、なかなか決まらないので、自分の可能性を少しでも上げるためにテストや普段の授業を頑張るようになってきました。そこで勉強のやり方に変化が起きました。前まではただ暗記をするだけで、その場しのぎのようなやり方でした。けど今は、暗記はもちろんのこと、その前に考えたり解いてみたりすることですっかりと定着してくれることに気づきました。

高校生になって部活に入らなかつたので時間がたくさんあり、暇だなと思っていたけど、これまで向き合おうとしていなかった勉強をちよつとした意識の変化でできるようになって、とても嬉しかったです。今後もこれを続けて新しい夢をつくれるように、将来後悔しないように頑張っていきます。

### 「この1年間で私は」

#### Q組 加勢本 玲世 (茨木市立天王中学校出身)

この1年間で私は将来のことについて考えることの大切さについて気づく事ができました。

入学前の自分は何も考えず、生活していました。しかし、高校生になり物事をよく考えるようになると、今の生活を三年間何も変えずに過ごすとうなるのだろうかと考えようになりました。自分の将来について考えたことはあったけど、聞かれると答えられないし、やりたいこともない、このままで

大丈夫なのかと思いました。そして、先生、親、友人、色々な人に相談し、将来像を考えました。まだ、やりたいことや夢、目標はないけれど考えることの大切さに気づく事ができました。

楽しいことや面白いことだけに目を向けるのではなく、自分の将来や今後することに背を向けずに考えることは生きていく上で必要なことだと、1年間を通して気づく事ができました。

### 「この1年間で」

#### Q組 勝 琉斗 (茨木市立西中学校出身)

大阪高校に入学してから私は、人間性が大きく成長しました。

現在、陸上競技部の長距離選手として活動させていただいているのですが、入学当時の私は、人見知りで同期、先輩方と話すこともあまりできず周りの印象は暗い人でした。ですが、私が大きく変わったキッカケは6月に怪我をしたことです。怪我をすることによって体力が衰え、私はただ負けたくないという気持ちになり、先輩などに強くなるために筋トレなどを教えてもらい、これがキッカケでコミュニケーションが取れるようになりました。それから合宿などしんどい練習を重ね同期の仲間はかけがえのない仲間になりました。1年目から都大路を生で見る事ができ中学生の時よりも目標が明確になりました。来年は自分が都大路のメンバーに入り、全国で戦う事が目標です。

この1年間、悔しいことの方が多かったです。先輩や同期と純粋に走る事を楽しめたので来年はより「厳しく、楽しく、丁寧に」をスローガンにしてチームの核となる選手になりたいと思います。目標を達成できるようコツコツ努力します。

「この一年で私は…」

R組 佐々木 一睡 (茨木市立三島中学校出身)

この一年で私が成長したこと、努力したことは二つあります。

一つ目は、物事の根本を見直し、客観的に考えられるようになったことです。何となく、成り行きで思考、行動しかしていなかった自分が、事の本質や意味を考えられるようになり、「幅広く考える」という意識から成長することができました。

二つ目は、人にものを伝えることの大切さを学んだことです。今まで見聞きする側で、自分が伝える側になったときのことを考えていませんでした。ですが、この探究コースではたくさんの情報を集め、まとめ、わかりやすく相手に伝え、さらに深めていくというところを行うので、どうすれば上手く伝えられるかを考えなおし、改めて重要なことなんだなと感じました。

このことを生かし、もっともっとプレゼン能力や思考の幅を広げていきたいです。

「この一年で変わったこと」

R組 中村 美咲 (大阪府立今市中学校出身)

私はこの一年でとてもプレゼン能力がついたと思います。最初は探究十九人の前で発表するだけでも緊張して震えが止まらなかったけど、今では総合コースに発表に行ったり、英語で発表したりして探究の子の前だけだと緊張もしなくなったり、キーノートとか自分の思っていることを前よりかは上手く表現できるようになりました。私は、元々表情を表に出すのが苦手だ思っていることも素直に言えず間違えることが恥ずかしいと思っていましたが、そ

れも今はなくなりました。私が探究に入って目標にしていたのは、人見知りせず色々な人と会話をすることです。今は総合との合同授業で知らない人と話せるようにもなったし総合・文理にも友達がたくさんできたから達成はできているのかなと思います。今後の目標はもっとプレゼン能力とコミュニケーション能力をあげていくのと、二年生から始まるゼミで自分の将来についてしっかり考えていきたいのと、後輩ができるから良い見本になれるように精一杯努力しようと思いました。

「苦手から好奇心へ」

R組 森 智恵那 (貝塚市立第一中学校出身)

この一年間で私は考え方や感じ方が変わったと思います。中学生の頃は勉強が嫌いで、何のために学校に行っているのかもあまりピンときませんでした。しかし、高校に入ると授業の仕方が変わり勉強の楽しさがわかってきました。今までは先生の話を聞いてノートに書く授業ばかりで自分で考え、感じるというおが出来ませんでした。しかし、高校の授業だと教科ごとにプレゼンテーションがあったので自分で調べて形にし、皆にどう伝えようかと考えることが出来たので、より内容が入っていきるので勉強しやすかったです。また、国語のプレゼンテーションなどは言葉を覚えるだけでなく、意味や時代背景を知ることによって日常に感じていた物や言葉が特別なものになりました。苦手なことはずっと苦手なものにしつつけるのではなく、苦手の中にも少しは自分の好きなことがあると気づけたので少しずつ苦手なことにも挑戦していこうと思います。

あとがきにかえて

### 大阪高等学校 第一学年団

二〇二〇年四月、例年とはかけ離れた状況の中で、期待や不安をにじませながら大阪高校の門を通ったあの日から、早くも一年が過ぎようとしています。この一年、第一学年団は新生の皆さんの成長を願いながら様々な取り組みを企画し、私たちなりに全力でぶつかってきました。大変なことや面倒なこともあったかと思いますが、その努力や経験が少しでも新生の皆さんの成長に繋がっていれば幸いです。

私たちが掲げたキーワードは『熱中』。

高校時代の3年間は今後の自分の未来を決定する要素を数多く経験する大切な時期です。勉強はもちろんのことですが、行事やクラブ活動など、自分が『熱中』できることを見つけ、本気で取り組むことが今後の『材料』となります。本気にするからこそ課題が見つかる、『熱中』にはそんな力もあります。

さて、新生の皆さんはこの一年間『熱中』して、クラスメイトや先生方と学び、学校生活を充実させる事ができたでしょうか。『この一年間で私は…』には、生徒の真摯な声が載せられています。一部の生徒の声ではありませんが、読まれた方々に、大阪高校の生徒が大いに『変化』も『成長』している様を読み取っていただけたと思います。また、この一年間、コロナ禍で様々なことが制限されました。それは教育活動も同じです。しかし、その中で、Zoomでの入学式や授業、

面談、さらに分散登校。球技大会や体育祭、文化祭、検定試験に実力テストなど、改めて振り返ってみると、本当に様々なことに取り組んできました。

まだ一年が経過したにすぎませんが、私たち第一学年団は、これまで見せてくれた生徒の『熱中』する姿を頼もしく感じています。残りわずか二年間ではありますが、共に刺激し合い、学び合いながら、これからも全力で生徒の成長を支援していきたいと考えています。

第一学年主任 暮部 隼人



「この1年間で私は・・・」  
～第1学年～



発行日 2021年3月31日 発行

発行 大阪学園大阪高等学校  
第1学年

発行所 大阪市東淀川区相川2-18-51  
TEL. 06-6340-3031

印刷 株式会社ティ・プラス